

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22
 防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp
 中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp
 情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp
 ☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

ホット通信

故国スリランカの津波被災の現状を把握するため、日本をたつたのは二〇〇五年二月。津波の襲来から四十日がたっていた。今回の調査は、支援活動がどのように行われているかを把握することが大きな関心事だった。ゴールデンビーチと呼ばれる南部の美しい海岸線千八百キロを車で一週間走った。

民さんたのやまぐち日記 ①

海沿いのリゾートホテルが受けた打撃は大きい。だが、一番の被害者は漁民であろう。身内を亡くしたうえに、船が破損し、家が流された。彼らの多くは不法占拠地にバラック小屋を建てて住んでいた。

スリランカ人に交じって家の復旧を手伝う外国人の集団も見受けた。暑い中、上半身裸で笑い声がとぎれることな

真の支援 人材育成急務

スリランカからの言づて ①

く作業していた。一月月の休暇を取って来たという青年は「惨事にかかわらず、現地の人から元気をもらった」と言い、ボランティアはしてあげただけでなく、たくさんのものが得られると、目を輝かせていた。

悲しいことに、一番会ったかった「日本」に会えなかった。私の知る範囲では、現地の新聞で日本の支援が報道されたのは一回だけ。日本の外



外国人青年たちががれきの中で、スリランカ人と一緒に汗を流している光景は何ともさわやかだった

って被災地に向かっており、海外ではそんな例は見つけにくい。いつのまにかアメリカ発のボランティアイコール有償という発想に日本も切り替わりつつあるのかと思う。

重要なのは、神戸や中越地震の時、大勢手伝いに走った同じ感覚で、無償で海外に飛んで行く人材育成が急務だということである。何かあると、すぐ募金したり、募金の組織が大きいほど信用されるという発想からも抜け出す必要がある。

か。非常に残念だが、一つ言えることは日本は支援の仕方が下手とある。日本は二つの点を考え直すべきである。一つはボランティアの形態について。NGO(非政府組織)で活動する人は、お金をもら



J・A・T・D・Dにしゃんた 1969年生まれ。スリランカ

987年来日。立命館大、名城大大学院、龍谷大大学院で学ぶ。経済学博士。2002年4月から現職。講義は国際経済論、アジア経済など。

(県立大国際文化学部講師)

教育・文化